

平成 26 年度 研究計画書

Research Plan FY2014

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ II 講座・教授
氏名 Name	川北(安生)恭子
専門分野 Academic Field	フランス語学

平成 26 年度 研究計画 Research Plan FY2014

主たる研究テーマ Principal Research Subject					
研究計画 Research Plan	<p>(1) 日仏語の思考表現方法・論理構成のあり方の差異を把握することにつながる日仏語対照研究の 1 つとして、フランス語連結詞研究を行っている。今年度は、既に考察・検討してきた <i>après tout, de toute façon, quoi qu'il en soit, en tout cas</i> の相違点を推意の介入の仕方や談話のテーマの観点から捉えなおしていきたい。そして、これらの連結詞と対応する日本語との関連を検討していく。これについては、日仏の小説原書とその翻訳本をコーパスとして用いていくことにしている。また、上記連結詞との類似性が問われる <i>d'ailleurs</i> や <i>toujours</i> にも考察対象を広げていきたいと考えている。</p> <p>(2) 上記フランス語連結詞との関連が認められる日本語の「やっぱり」「どうせ」について考察したい。これは、フランス語小説の日本語翻訳本にも訳語として現れることが観察されるが、逆に日本語小説がフランス語に翻訳される際にどのような結果がみられるかについても観察・考察したい。</p>				
共同研究可能な分野 Research Fields feasible for joint research	外国語教育	フランス語学	対照言語学		
キーワード Keywords	連結詞	推意	接続詞	語用論	翻訳